

(6) これまでの成果と課題(まとめ)

	家庭	地域	保育所等施設	学校	市立図書館をはじめとする公共施設
【主な取組】	① 絵本にふれあう環境づくり、読み聞かせのきっかけづくり 【市】 ■ブックスタート・セカンドブック、おはなし会の開催 【保育所等施設】 ■図書コーナーの設置・充実 ■日常的な読み聞かせ、絵本の貸出し、保護者へおたよりによる啓発活動	① 地域で読書しやすい環境の整備 【読書ボランティア団体、地域文庫】 ■6の地域文庫、18の読書ボランティア団体の存在 ■読み聞かせ、本の貸出、本にふれあえるイベントの開催 【市立図書館】 ■配本・読書ボランティア養成講座などで支援	① 身近なところで、工夫を凝らした読書活動の展開 【保育所等施設】 ■図書コーナーの整備 ■保育士への読み聞かせ研修、読書ボランティア団体との連携によるおはなし会の開催 【市立図書館】 ■団体貸出、ブックリサイクル本の提供による支援	① 学校司書・司書教諭による図書館運営、読書ボランティア団体も加わった読書関連事業の開催 【小・中学校】 ■学校司書の全校配置 ■「朝の読書」「読書週間」「ブックマスター」などの取組、読書ボランティア団体と連携した「朝の読み聞かせ」「おはなし会」の開催 【高校】 ■「朝の読書」「図書委員会による学童保育所での朗読会」の開催 【特別支援学校】 ■団体貸出を活用した図書室の充実、読書関連事業の開催	① 包含的な読書環境の整備と図書サービスの充実 【市立図書館】 ■配本や団体貸出、「読書ボランティア団体と連携したおはなし会」、「中学生読書サポーター」など事業の実施 ■「えいごでおはなし会」「プログラミング教室(産学官連携開催)」「高校生によるおはなし会」の開催 【児童館・児童センター、学童保育所】 ■図書コーナーの充実、絵本の読み聞かせ等、本にふれあう環境づくり
【成果】	① 読み聞かせに対する保護者の関心の高さや熱心さ(家庭での読書環境の充実) 【乳幼児】 ～「アンケート調査」から～ ・読み聞かせをしている割合:9割超 ・週1回以上読み聞かせ:8割近く ・本情報の入手先:身近な保育所等施設を活用 ・ブックスタート・セカンドブックは、読み聞かせのきっかけとして評価	① 「地域で、子どもの読書を大切にする気風」が受け継がれている ② 地域文庫の卒業生がこの活動をサポートするなど活動の広がり ③ 公民館活動において、「居場所づくり(乳幼児と保護者)」「子育てサロン(世代間交流)」に発展	① 年長児が年下の園児に読み聞かせするなど活動の広がり ② 保護者は、(図書館へ出向くことなく)日常活動の中で、本を借り、絵本や読書活動の情報を入手できる ～「アンケート調査」から～ ・本の調達先、情報の入手先:保育所等施設が上位	① 読書活動に主体的に関わる姿勢がうかがえる 【小・中学生】 ～「全国学力・学習状況調査」から～ ・読書が好きな割合:7割超 ・学校図書館に行く割合:福岡県、全国平均を上回る(小学生:7割超、中学生:5割) 【高校生】 ～「アンケート調査」から～ ・読書が好きな割合:8割近く ・学校図書館に行く割合:5割 ② 【小・中学生】 POP製作、ビブリオバトルなどの自主的な読書活動の広がり ③ 複数の小学校が「子ども読書活動優秀実践校」「読書感想画コンクール」で表彰	① 読書活動推進のための様々な事業を展開 ⇒貸出点数や貸出期間の改善、電子図書館サービスの導入等により、コロナ禍の読書活動の幅を広げた ② 【児童館・児童センター】 おすすめの本のプレート作成などの自主的な読書活動の広がり
【課題】	① ブックスタート・セカンドブックの効果を踏まえ、対象年齢や配布方法等の改善、その後のフォローアップ ② 市立図書館を親子連れで気兼ねなく利用できる工夫 ⇒家庭・子どもと本との出会いの場を広げる ③ 子どもの読書の習慣化を促す ⇒保護者に子どもの読書の意義・重要性の啓発 ⇒家族ぐるみで読書を楽しむ雰囲気の醸成	① コロナ禍での活動中断や縮小 ② 担い手不足や高齢化、地域による活動のばらつき ③ 地域での子ども読書活動の活性化 ⇒新たな人材や担い手を発掘・養成 ⇒市立図書館が中心となった関係機関のネットワークの深化 ⇒市立図書館の蔵書をフル活用し、地域の施設への団体貸出や配本などの拡充	① 市立図書館との連携による団体貸出の拡充 ② 市立図書館や読書ボランティア団体などとの連携の深化 ③ 学童期につながる読書のきっかけづくり	① 図書館に行く割合は、小中ともにほぼ横ばい、不読率は小・中・高校生ともに増加傾向(塾や習い事、部活動に時間を割かざるを得ない状況、電子ゲームの時間も増加) ② 学校GIGAスクール構想の中、そのタブレットを活用した古賀市電子図書館サービスの推進 ③ 子どもの自主的・自発的な読書活動を更に促す ⇒団体貸出等の活用による資料の充実 ⇒YAコーナーの充実、工夫・改善 ⇒メディアコントロールによる望ましい生活習慣を身に付けるための啓発	① コロナ禍の影響もあって、市立図書館の貸出冊数・入館者数の減少、子ども向け事業の中止や入場が制限 ② 公共施設間や読書ボランティア団体などとの連携の深化 ③ 今どきの広報・啓発活動の実施 ④ 古賀の強み(「歴史的な伝統と気風」「多彩なネットワーク」「熱心な読書ボランティア団体」)をアピールし、今ある資源をフルに活用
《ポイント》市立図書館が中心となって、 ■各施設が、子どもたちにとって「読みたい本がある」「本を手に取りやすい」場 となるよう支援 ■公共施設間や読書ボランティア団体との連携を更に深化 ■子どもの読書の意義・重要性を啓発					